

1-14 地域におけるケア体制の充実

医療や介護が必要になったとしても、生涯にわたり住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる環境を整えるため、限られた医療資源を補完できるだけの体制の構築を進めるもの



医療・介護・生活支援の連携強化

【予算額】7,028千円

在宅医療推進センターを核に、地域包括支援センターを通じ、医療、介護、生活支援を一体的に提供するための総合調整機能を整備

在宅医療推進センター

医療・介護・生活支援に関する情報や課題の集約

包括ケア推進会議

医療・介護・生活支援の連携等、地域包括ケアシステム構築に関する課題解決策の協議

地域包括支援センター

地域にある資源をつなぎ、サービスの利用調整を行う

高齢者とその家族の生活の総合支援



ICTを活用した情報共有システムの構築

【予算額】3,888千円

タブレット端末等を活用し、利用者の医療・介護・生活支援に関する情報を迅速かつ正確に共有し、緊急時を含め効率的・効果的に支援を提供する体制を構築

生活支援体制の整備

住民相互の支え合いによる生活支援体制の整備

いきいきサロン等の地域住民の通いの場で醸成された顔の見える関係を、住民相互の支え合いにつなげるとともに、通いの場の新規立上げを支援

元気な高齢者による生活支援体制の構築

通いの場

高齢者人口250人に1か所
※自治会単位を基本とし、地理的要件も加味

新規立上げ・継続支援

地域包括支援センター けんぽうライフ応援ステーション
シルバー元気プロジェクト ※3-1参照